

## 美唄歯科医師会 学校歯科健診マニュアル

健康診断表の記入要領

### ①顎関節、歯列・咬合

#### (1) 顎関節

- 0 (異常なし) : 顎関節部・咀嚼筋部の異常を認めず、開口・閉口時に障害・偏位・疼痛などの異常所見がなく、本人から異常の訴えもない者
- 1 (要観察) : 開口・閉口時に明らかに下顎の偏位が認められる者。開口・閉口時に顎関節部に雑音が認められる者。
- 2 (要精検) : 顎関節部あるいは咀嚼筋部に疼痛が認められる者。開口・閉口時に顎関節部あるいは咀嚼筋部に疼痛を訴える者。開口時に二横指以下の開口障害が認められる者。

注意事項 ①顎関節雑音 ②顎の偏位 ③開閉口障害 ④開閉口痛

#### (2) 歯列・咬合

- 0 (異常なし) : 歯列・咬合にとくに異常が認められない者。
- 1 (要観察) : 歯列・咬合に軽度の乱れがみとめられるが、矯正治療を要するほどではなく今後の状態を注意深く観察する必要がある者。

習癖と歯列・咬合との関係

			
指しゃぶりによる開咬	頬ずえによる下顎側方歯の舌側への傾斜	咬唇癖	舌癖

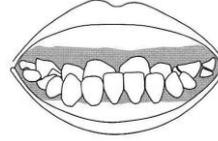
観察が望ましい歯列・咬合 (要観察「1」の対象)

			
前歯部が反対咬合であるが、永久歯交換まで経過観察	下顎右側側切歯が舌側移転しているが経過観察	正中離開と側切歯の萌出余地不足が心配されるが経過観察	犬歯の萌出余地不足が心配されるが経過観察

2 (要精検) : 歯列・咬合に矯正治療を要すると判断される者、あるいは保健調査票や口頭で本人や保護者から矯正治療の相談申し出のある者で、精密検査と診断が必要な者。

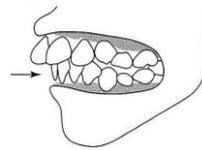
1) 反対咬合 : 3 歯以上の反対咬合

※1 歯でも骨格性を疑う下顎前突



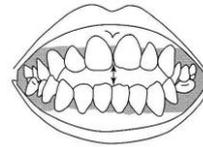
2) 上顎前突 : オーバージェット 8mm 以上

通常使用するデンタルミラーの直径の 1/2 程度

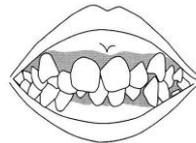


3) 開咬 : 上下顎前歯切縁間の垂直的空隙が 6mm 以上。

通常使用するデンタルミラーのホルダーの太さ以上、  
ただし萌出が歯冠長の 1/3 以下のものは除外

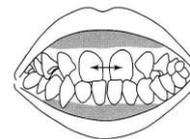


4) 叢生 : 隣接歯が互いの歯冠幅径の 1/4 以上重なるもの



5) 正中離開 : 上顎中切歯間の空隙が 6mm 以上

通常使用するデンタルミラーのホルダーの太さ以上、  
ただし萌出が歯冠長の 1/3 以下のものは除外



6) その他 : 過蓋咬合、交叉咬合、一歯のみでも著しい異常等があれば記載



過蓋咬合 : 上顎前歯で下顎前歯歯冠の大部分が覆われる

## ②歯垢の状態

前歯部唇面で主に視診によって判断

- 0 (良好) : ほとんど歯垢の付着を認めない者
- 1 (若干の付着) : 歯面の1/3以下に歯垢の付着を認める者で、ブラッシング指導を要すると判断される者。
- 2 (相当の付着) : 歯面の1/3を超えて歯垢の付着が認められる者で、ブラッシング指導は行わなければならないが、場合によっては生活習慣に問題があって健康相談を行う必要のある者

※萌出途上の第一大臼歯、第二大臼歯で、低位にある歯では、咬合面に多量に歯垢が付着していることがある。

う蝕予防の見地から、この部位の清掃が大切であるので、このような児童生徒には特に指導するとよい(「2」と記入する)

## ③歯肉の状態

前歯部を主に視診によって観察

- 0 (異常なし) : 歯肉に炎症のない者
- 1 (要観察) : GO—歯周疾患要観察者  
歯肉に軽度の炎症症候が認められるが歯石沈着は認められず定期的な観察が必要な者  
注意深いブラッシングを行うことによって炎症症候が消退する程度の歯肉炎を有する者。

### GOの基準

- 1. 歯肉に軽度の炎症症候が認められるが、健康な歯肉の部分も認められる者。
- 2. 歯垢の付着は認められるが、歯石の沈着は認められない者。
- 3. 歯の清掃指導を行い、注意深い歯磨きを続けて行うことによって炎症症候が消退するような歯肉炎を有する者

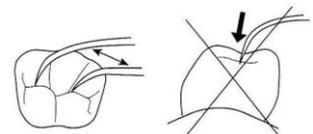


- 2 (要精検) : G 歯肉炎などの歯周疾患罹患者  
精密検査や診断・治療が必要な歯周疾患が認められる者  
歯石沈着を伴う歯肉炎の者、あるいは歯周炎、増殖性歯肉炎が疑われ、精密検査と処置を必要とする者。

#### ④歯の状態（歯式）

永久歯	記号	説明
現在歯	\	現在萌出している歯は、斜線または連続横線で消す。過剰歯は数えず、「その他の疾病及び異常」の欄に記入。
要観察歯	CO	視診ではむし歯と判定できないが、むし歯の初期症状を疑わせる歯。
むし歯(D)	C	視診にて歯質にウ蝕性病変と思われる実質欠損が認められる歯。2次ウ蝕も含む。確定診断ではないのでC1、C2、C3は全てCと記入。治療途中の歯もCとする。
喪失歯(M)	△	むし歯が原因で喪失した歯。乳歯には用いない ※ むし歯以外の原因で喪失した歯(例:矯正治療、先天性欠如、外傷、未萌出歯、埋伏歯等)は含まない。
処置歯(F)	○	充填、補綴(冠、継続歯、架工義歯の支台等)によって歯の機能を営むことができる歯。
シーラント処置歯	☺	健全歯として扱う。
歯周疾患要観察者	GO	歯肉に軽度の炎症が認められるが歯石沈着は認められず定期的な観察が必要な者
歯周疾患罹患者	G	精密検査や診断・治療が必要な歯周疾患が認められる者
歯石沈着	ZS	歯石の沈着が認められるが歯肉に炎症が認められない者
乳歯	記号	説明
現在歯	\	現在萌出している歯は、斜線または連続横線で消す。癒着歯は2本とする。
要観察歯	CO	永久歯の要観察歯(CO)に準ずる。
むし歯	C	永久歯に準ずる。
処置歯	○	永久歯の処置歯の定義に準ずる。
要注意乳歯	×	晩期残存し、後続永久歯や歯列に障害を及ぼす恐れのある乳歯
サロライド塗布歯	☺	・ウ窩が存在しない場合はCOと同様の扱いとする。 ・明らかなウ窩があるウ歯に塗布された場合は未処置として扱い の補助記号をつけ、健康診断結果のお知らせには反映しない ・明らかなウ窩があり、治療を要する歯はCとする
シーラント処置歯	☺	永久歯と同じ扱い。

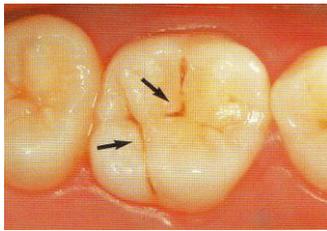
※ 探針を用いてウ窩の存在の確認をせざるを得ない場合、  
歯軸方向に垂直的な強い圧を加えず、  
なるべく裂溝や歯面に沿って水平的に移動させるようにする



### 要観察歯 CO について

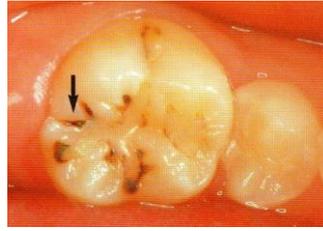
主に視診にて明らかなウ窩は確認できないが、ウ蝕の初期病変の徴候（白濁・白斑・褐色斑）が認められ、その状態を経時的に注意深く観察する必要がある歯

- 1、小窩裂溝において、エナメル質の実質欠損は認められないが、褐色、黒色などの着色や白濁が認められるもの。（CO 例 1、2）
- 2、平滑面において、脱灰を疑わしめる白濁や褐色斑等が認められるがエナメル質の実質欠損の確認が明らかでないもの。（CO 例 3、4）
- 3、精密検査を要するウ蝕様病変のあるもの（特に隣接面）（CO 例 6）



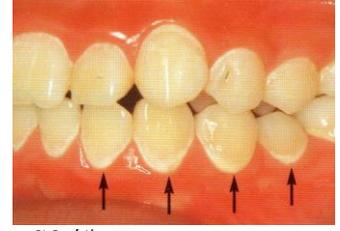
CO 例 1

小窩裂溝の着色



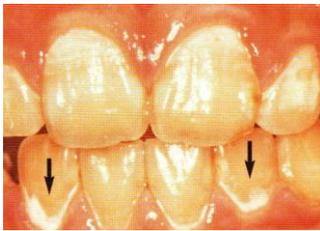
CO 例 2

充填物の周囲に見られる着色



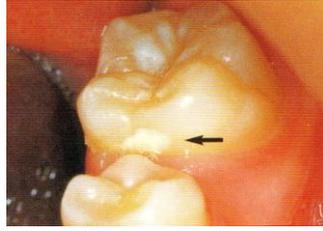
CO 例 3

平滑面に見られる白濁



CO 例 4

平滑面に見られる白濁



CO 例 5

隣接面に見られる白濁



CO 例 6

隣接面に見られるウ蝕様病変

### ※その他の疾患および異常の欄

歯の硬組織の異常：フッ素症歯、癒合歯、癒着歯、歯牙破折、エナメル質形成不全、円錐歯

歯数異常：先天性欠如歯、過剰歯

歯の位置異常：転位歯、低位歯、埋伏歯

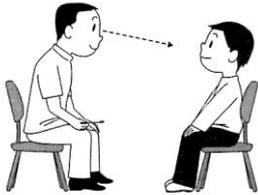
唇・口蓋の異常：口唇裂、口蓋裂、口唇炎、口角炎

軟組織の異常：ヘルペス、エプーリス、アフター、潰瘍、小帯異常、舌苔、舌炎

不良習癖（悪習慣）吸指癖、咬唇癖、咬舌癖など

## 健康診断の流れと要点

- ◎ 保健調査票で本人の状態や問題点を確認する。
- ◎ 口を閉じて姿勢を正して座らせ、姿勢・顔面・口の状態を外部から診査する。



異常あり → 学校歯科医所見欄に記入

- ① 顎関節部に指を当て、口を開閉させて顎関節と歯列・咬合の状態をそれぞれ診査する。



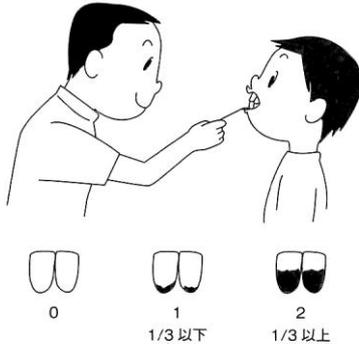
◆顎関節

異常なし → 0  
 要観察 → 1  
 要精密検査 → 2

◆歯列・咬合

異常なし → 0  
 要観察 → 1  
 要精密検査 → 2

- ② 噛み合わせた状態で前歯部の歯垢の付着状態を診査する。



ほとんどなし → 0  
 1/3 以下 → 1  
 1/3 以上 → 2

- ③ 噛み合わせた状態で前歯部の歯肉の状態を診査する。



GO=歯石の付いていない歯肉炎

異常なし → 0  
 要観察(GO) → 1  
 要精密検査(G) → 2

- ④ 口を開けて歯の状態を診査する。



CO: 着色・白濁・白斑・粗造面

要観察 → CO  
 要治療 → C

- ◎ 児童生徒が抱えている問題や相談があればそれに応じる。

記入方法

児童生徒健康診断票 (歯・口腔)

小・中学校用

氏名				性別		生年月日			年 月 日		学校 歯科医 所	事後 措置		
年	年	類	歯	男	女	年	月	日	年	月			日	
年齢	0	0	0	歯式 (例 A B)				歯の状態				その他の 疾病及び 異常	見	日
	1	1	1	歯式 (例 A B)				歯の状態						
年齢	2	2	2	歯式 (例 A B)				歯の状態				見	日	
	1	1	1	歯式 (例 A B)				歯の状態						
年齢	2	2	2	歯式 (例 A B)				歯の状態				見	日	
	1	1	1	歯式 (例 A B)				歯の状態						

歯列・咬合で数値が違う場合は、数値の高い方に○を記入。

異常名と部位を記入。

CO, 要注意乳歯、GO, G、補綴を要する、要精検等その他留意すべき事項を記入。

- 参考文献：「学校歯科医の活動指針」（改訂版）日本学校歯科医会  
 「歯・口腔の健康診断と事後措置の留意点－CO・GOを中心に」および「-よりよい顎・口腔機能の育成を目指して-」日本学校歯科医会  
 「学校歯科保健の基礎と応用」医歯薬出版  
 「CO・GOの意義と対応」日本学校歯科医会